ねりまの農業

Agriculture in Nerima

プロローグ
練馬から始まる新しい“農”の物語

全国都市農業フェスティバル … 04

ねりま・ふうど …… 06
野菜 ／ 果物 ／ 花

農を練馬風に楽しむ …… 15
自分に合った体験を　農とのふれあい
自分で育てる楽しみ　農にチャレンジ

ねりマルシェに行こう！ …… 26

直売所に行こう！ …… 28

風を起こす！ …… 30
高松みらいのはたけ
農の学校
農の風景育成地区制度
練馬流の“食育”
都市農地保全推進自治体協議会
都市農業の可能性は無限大

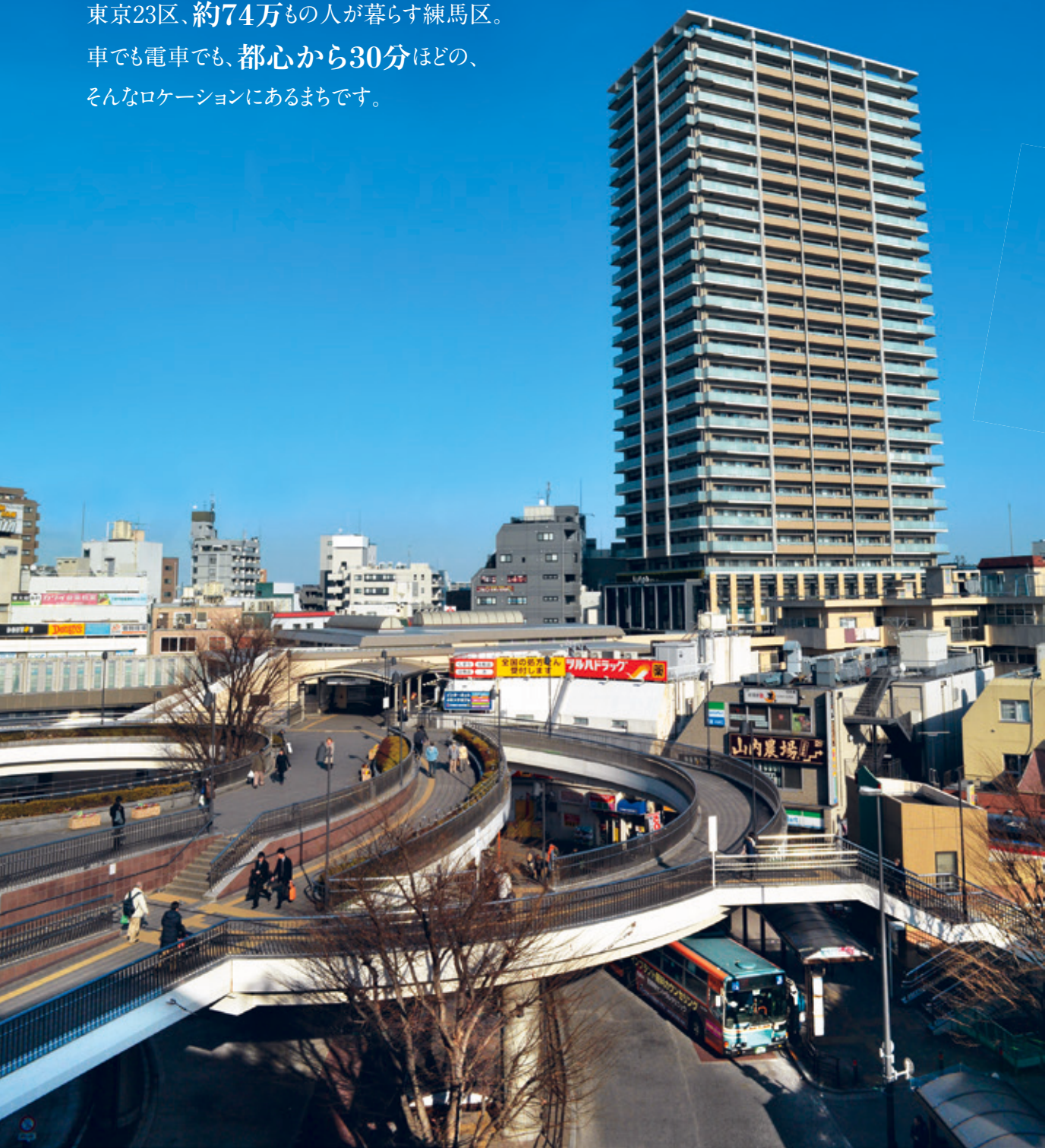
世界都市農業サミット …… 36

データ☆ダイジェスト …… 38

練馬区の農業マップ …… 裏表紙

練馬から始まる
新しい“農”の物語

東京23区、**約74万**もの人が暮らす練馬区。
車でも電車でも、**都心から30分**ほどの、
そんなロケーションにあるまちです。



一方で、そう、見まわしてほしいのです。

そして気づいてほしいのです。

たくさんの家やマンションに囲まれた中で、

ダイコンやキャベツ、イチゴにブルーベリー。

多種多様な野菜や果物たちが、顔をのぞかせていることに。

練馬区には、多くの農地が残されています。
東京23区の中で最も多く、23区にある農地の**約4割**が練馬区にあります。

都市において「農地」を残すことは、簡単ではありません。
都市農業ならではの難しさを抱えながら、
人々の理解と協力のもと、農地が受け継がれてきました。

今では、環境保全、防災、教育、福祉など、さまざまな面で
農地が良い循環を生み出し、多くの人の共感を呼んでいます。

そして何よりも、練馬の農業は、
大都市にありながらも、豊富な生産力を誇るとともに、
都市における生活の質をより豊かにする農のあり方を、
常に発信しつづけています。
まさに**“生きた農業”**なのです。

“生きた農業”の周囲には、
そのことに価値を感じる人たちが集まっています。
そうした価値観を持った人たちがサポーターとなって、
新たなコミュニティが畑から生まれています。
農が人々のよりどころとなっているのです。

都市の生活と農業、都市の住民と農業、
これらが**融合**して、一体となっているまちの姿は、たいへん貴重なものです。
都市農業の新たな形として、世界に誇れるものです。

練馬に吹く新しい風を

これからの“農”と“都市”のあり方を、あなたに伝えたいのです。

全国の都市農業が練馬区に集結！

全国都市農業フェスティバル

ねりま推し 2023

都市農業の魅力を広く発信し、さらに都市農業の振興を図るため、
全国都市農業フェスティバルを開催します。

開催日時 令和5年（2023） 11/19 日 10：00 ▼ 16：00

会場 東京都立光が丘公園ほか

イベント概要

買う Shopping

練馬産農産物・加工品のほか、全国24都市の特産品を販売！

食べる Eating

参加都市の特産品や練馬産野菜を使ったメニューを提供するキッチンカーが出店！

体験する Activity

京野菜の収穫や多肉植物の苔玉づくりなどが体験できるブースを出展！

話す・学ぶ Learning

都市農業に取り組む全国の農業者と、スペシャルゲストによるトークライブを開催！

都市農業に積極的に取り組む自治体のうち、東京都内および三大都市圏から1都市ずつ、計4都市を招へい！
また、全国から20の自治体が参加し、都市農業の魅力と可能性を一体となって発信します！

招へい都市

名古屋市

直売所や朝市・青空市、スーパーマーケットや飲食店を巡るスタンプラリーの開催、JAが移動販売車で「なごやさい」を販売するなど、地産地消を推進しています。

国分寺市

「こくベジ（地場産農畜産物の愛称）」およびこくベジ使用飲食店をPRすることで市内消費促進と地域活性化を目指す「こくベジプロジェクト」を展開しています。

京都市

伝統野菜（賀茂なす、みず菜等）や新京野菜（京北子宝いも、京の黄真珠等）の販売を促進しています。また、市内生産者や直売所の情報をインターネットで発信するなど地産地消を推進しています。

松戸市

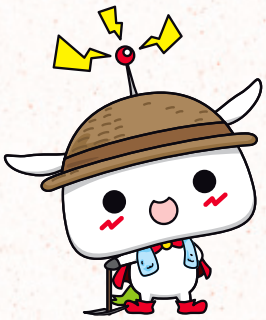
「矢切ねぎ」や「あじさいねぎ」、「まつどの梨」など、農産物のブランド化を推進しています。令和元年にねぎの魅力を全国に発信する「全国ねぎサミット2019inまつど」を開催しました。

{food 風土}

ねりま・ふうど

Nerima food

愛情たっぷり
練馬で育った農産物



野菜
Vegetables

果物
Fruits

※ 果実的野菜であるイチゴは果物として掲載しています。

花
Flowers

ねりま・ふうど

{food 風土}

野菜

Vegetables

人々の生活に
不可欠な野菜
食べるふうど

都内ナンバーワン 練馬キャベツ

住宅地に広がる緑の畑 練馬を代表する野菜

キャベツは練馬区の農業を代表する野菜です。区内の畑における作付け面積のトップを占めており、都内ナンバーワンの生産量となっています。昭和初期まで練馬は大根の産地として有名でしたが、戦後はキャベツが生産の中心となりました。住宅街の中に広がるキャベツ畑は、練馬の大切な財産です。

ねり丸キャベツ

安全・安心で新鮮、食味も抜群!JA東京あおば野菜流通協議会が、都内ナンバーワンの産地で育ったキャベツを「ねり丸キャベツ」としてブランド化しました。

キャベツを作って40年以上になります。学校給食にも使われているんですよ。きちんと手入れをしないと良いものが採れないので、妥協せず、キャベツの身になって育てるようにしています。

生産者
井之口 喜實夫さん

よみがえった江戸東京野菜
練馬大根

江戸の食文化の象徴
伝えつづけられる練馬大根

練馬大根の栽培は江戸時代に始まったと言われています。元禄期（1688～1704年）の頃から江戸の人口が増えたことを背景に、大根の生産も増加しました。江戸から近い練馬は、野菜の供給地として大変重要であったと言えます。

明治から大正にかけて生産のピークを迎えた練馬大根ですが、昭和に入ると干ばつや病気のまん延によって生産量が減少し、戦後の洋食化、農地の減少などによってほとんど栽培されなくなってしまいました。

そのような練馬大根を復活させようと平成元年に始まったのが、練馬大根育成事業です。この事業により、令和４年度には約14,000本の練馬大根が生産されました。練馬大根を守り継いでいくため、練馬区では、栽培の促進やイベント、食育等を通して魅力の発信に努めています。

練馬大根の採種場（さいしゅじょう）

種子販売により、練馬大根は全国的に有名になりました。

干し大根

伝統的な「たち編み」で干されている練馬大根。水分が少なく、皮は薄く、色は白く、乾きやすい特性を持ち、干し大根に適しています。

生産者
渡戸 章さん

代々農家であるわが家は長年、練馬大根の生産に関わってきました。伝統ある練馬大根を未来へ残していくため、伝来種としての種を守る取り組みも行っています。後継の人が育ってほしいですね。

JA東京あおば農業祭

練馬大根は一般の市場に出回りませんが、毎年11月に開催される農業祭などで購入することができます。

ねりま漬物物産展

練馬の特産物である漬物を紹介するため毎年2月頃に開催されます。市場に出回らないねりま本干沢庵（ほんぼしたくあん）は大人気です。

伝来種（でんらいしゅ）保存事業

平成18年度から、昔ながらの練馬大根の栽培と採種を行い、伝来種としての特性を持つ種子を継承する事業を行っています。

トマト畑
年間を通した購買需要に応えるため、ハウスでの栽培が増えてきています。

養液栽培
土を使わず、肥料を水に溶かした培養液で作物を栽培する方法です。

会社員時代、都市農地の保全に関心を持ったことから、結婚を機に自ら就農しました。人がやっていないことをやりたかったので、養液栽培でトマトを育てています。応援してくれる人や仲間の存在がありがたいですね。

生産者
山口 卓さん

練馬に新風を巻き起こす トマト

弾ける甘味とほど良い酸味、こだわりの逸品

トマトは生産面積が小さくても高い収穫量が見込めるため、農地が限られている都市農業に適しています。

特に、冬から春にかけて収穫できるハウス栽培は、市場に出回る量が少ない時期にも新鮮なトマトが食べられ、消費者に喜ばれていることから、意欲的な若手生産者などの間で注目が集まっています。

ブロッコリー

ブロッコリーはキャベツに次ぐ練馬の代表的な野菜です。栄養価がとても高く、調理も簡単です。最もおいしい旬の時期は11月から1月頃です。

鮮度が非常に重要なエダマメ。「ねりマメ」は、鮮度を維持できるよう工夫して出荷しているエダマメブランドです。都会で農業ができるのも住民の方の理解があってこそ。自分で収穫した新鮮な野菜を食べることで、農業のことをもっと知ってほしいですね。

生産者 **田中 聖晃**さん

エダマメ

未成熟な青い大豆を収穫したものがエダマメです。栄養価が高く、食べるのも簡単なことなどから、海外でも人気が出てきています。収穫後すぐに冷やすことで、甘味が強く、香り高いエダマメを出荷できます。

ダイコン

弥生時代に伝わった大根は、煮る、蒸す、炒める、生食と調理の幅も広く、日本人の食卓に欠かせない野菜のひとつです。青首大根は辛味が少なく、生食にも向いています。寒さが厳しくなる12月頃になると甘味が増してきます。

ジャガイモ

ジャガイモは1600年頃、日本へ伝わってきました。明治後期に積極的に栽培されるようになりました。

ねりま・ふうど

{food 風土}

果物

Fruits

栄養満点の輝く果物味わうふうど

P16へ

ブルーベリー

1960年代に導入されたブルーベリー。ポリフェノールの一種であるアントシアニンが豊富です。練馬区にはブルーベリー観光農園があり、摘み取りを楽しめます。

ブドウ

栄養が豊富で、ヨーロッパでは「畑のミルク」と呼ばれているブドウ。練馬区ではさまざまな品種を栽培していますが、市場にはほとんど出回らず、農家の直売所などで販売されます。

ウメ

ウメは古くから日本人に親しまれてきた果実で、梅干しや梅酒、ジャム、梅酢など、いろいろな用途で使われています。

カキは計算を必要とする果物で、翌年の実のことまで考えて手入れをする必要があります。難しいですが、そこがカキのおもしろいところです。東京のブランド柿を普及させ、もっと多くの人においしさを知ってもらいたいですね。

生産者　**荘埜 銀一**さん（右）
晃一さん（左）

カキ

「柿が赤くなれば、医者が青くなる」と言われるほど、栄養価が高いカキ。生食や干し柿として長年愛されています。練馬区では、毎年秋に柿狩りを楽しめる農園があるほか、果樹を活用した体験学習事業を実施しています。

クリ

クリご飯や甘露煮、マロンペーストなど、洋の東西を問わず、クリはさまざまな調理法が考案されてきた果物で、9月から10月に旬を迎えます。

会社勤めの後、親の畑を継いで就農しました。養液土耕栽培法で紅ほっぺを中心に栽培しています。花から収穫までの期間が長いほど、甘くおいしいイチゴになるんです。1粒の価値の高いイチゴを手間ひまかけて育てています。

生産者　**加藤 博久**さん

イチゴ

日本で本格的にイチゴが栽培されるようになったのは明治時代からです。イチゴに含まれるビタミンCは、果実の中ではトップクラス。練馬区でも、丹精こめて生産されたイチゴが直売されています。

とちおとめを中心に120坪で3,200株ほど栽培しています。植え付けの時は孫も交えて一家総出。とってもデリケートなので、細心の注意を払いながら育てています。うちのイチゴは小学校の給食に出ることもあるんですよ。

生産者
加藤 和雄さん
喜代子さん　ご夫妻

農園リストは
P45へ

ねりま・ふうど

{food 風土}

花

Flowers

人々を魅了し 街を彩る花 魅せるふうど

シクラメン

冬季の贈答花として人気のあるシクラメンは、日本で最も生産されている鉢植えのひとつです。練馬区でも盛んに生産されており、その出荷量は都内2位となっています。

練馬育ちのシクラメンは暑い夏を越えて花を咲かせるため、丈夫で寿命が長いと好評なんです。地方に負けないよう、時代の流れやお客さんの好みに合わせて、商品も変化させていきたいですね。

生産者 **田中 誠蔵**さん

サツキ

「練馬模様木」で一世を風靡（ふうび）した練馬のサツキ。旧暦の皐月（5月）に花が咲くことから「サツキ」と命名されました。

毎年5月に区役所本庁舎のアトリウムで、サツキの展示を行っています。

農を練馬風に楽しむ

農作業をしたことがない人も、ベテランさんも
練馬で自分に合った「農」を楽しもう!

自分に合った体験を
農とのふれあい

自分で育てる楽しみ
農にチャレンジ

“カジュアル”に農とふれあう

練馬果樹あるファーム

都心から気軽に行ける
多様な果樹の摘み取り園

区内で生産されているブルーベリーやカキ、ブドウなどの果樹を直接摘み取ったり、直売所で購入できる農園が「果樹あるファーム」です。

“カジュアル”は、肩肘張らないスタイルを示す言葉であり、果樹あるファームでは、身近で気軽に農の魅力とふれあうことができます。また、農業者にとっては新しい視点で農業経営を展開できる側面も持っています。

練馬区では、果樹の摘み取りを通した農との気軽なふれあいを推進しています。

カジュアルに
「農」とふれあえる場所。
練馬
果樹ある
ファーム
Nerima Casual Farm

農園リストは
P45へ

気軽に「収穫」を楽しもう

ねりまベジかるファーム

身近に、気軽に。
農の醍醐味を体験できる農園

練馬区では、気軽に野菜の収穫体験が出来る農園を「ベジかるファーム」として紹介しています。

ベジかるファームでは、野菜の収穫体験を通して、楽しみながら、農業の大切さや魅力を感じることができます。自分の手で収穫した野菜は究極のとれたて。家族で、友人同士で、収穫した泥付きの野菜を洗って料理すれば、その美味しさに食卓での会話も弾みます。そういった体験を通して「身近に農のある暮らし」の大切さや地元農業・農業者への親しみを感じていただければと願っています。

農園の情報は、農の情報発信アプリ「とれたてねりま」で発信しています。(▶P23)ぜひ、お近くの農園で野菜の収穫をお楽しみください。

ねりま
ベジかるファーム

自分に合った体験を
農とのふれあい

土と生産者にふれあえる ふれあい農園

平成９年度から始まったふれあい農園は、練馬区内の生産者が栽培した農作物を参加者が収穫することのできる農業体験イベントです。収穫できる野菜はジャガイモやサツマイモのほか、ニンジン、ダイコン、ネギなど。家族で楽しく参加することができます。

「大きいのが採れた！」と歓声を上げながらイモ掘りを楽しむ子どもたち。

牛から学ぶ農と命の大切さ 酪農体験

酪農体験事業は牛とのふれあいを通して、牧場や酪農業への理解を深めてもらうため、平成17年度から開催しています。会場は23区唯一の牧場である小泉牧場。1,000㎡の敷地で25頭ほどの乳牛を飼育しています。小泉牧場は「酪農教育ファーム」の認証を受けており、「食」や「命」の教育の場として、都市部における酪農の価値を伝えています。

牧場と牛のお話

牧場で使用する道具や牛の生態、牛乳についての説明を聞きます。

仔牛とのふれあい

生後2～3か月の仔牛とのふれあいや、エサやりを体験できます。

エコファームヨシダ **吉田 茂雄**さん

子どもたちが楽しそうにジャガイモ掘りをしている姿を見ると、励みになります。収穫体験をとおして、普段食べている野菜がどうやってできるのか等興味を持ってもらい、食育につながれば嬉しいですね。

◆ ◆ ◆

加藤農園 **加藤 茂平**さん

ジャガイモ掘りを楽しんでいる子どもを見て、大人も一緒に楽しめるのが良いところだと思います。自分で採った野菜なら、たくさんあっても子どもはきちんと食べるんですよ。楽しみながら農業にふれてほしいですね。

◆ ◆ ◆

▶▶

搾乳(さくにゅう)体験

乳しぼりを体験できます。手でミルクを受け取ると、ミルクの温かさを実感できます。

▶▶

ブラッシング体験

牛のストレスを減らし、ミルクの量を増やすためのブラッシングを体験できます。

小泉牧場
3代目牧場主 **小泉 勝**さん

地域の理解あってこその小泉牧場です。子どもたちには、手で乳しぼりを体験してもらっています。そのぬくもりを感じてもらい、ミルクは生きているんだ、命の証なんだということを感じてほしいです。農や食、そして命の大切さを、牛たちから学んでもらえたらと思っています。

◆ ◆ ◆

熱風を巻き起こせ！

練馬大根引っこ抜き競技大会

引っこ抜きで熱くなれ!
練馬大根引っこ抜き競技大会

中太で長いため、引き抜きづらい練馬大根。その特徴を活かした一大イベントが、平成19年度から始まった「練馬大根引っこ抜き競技大会」です。ＪＡ東京あおばとの共催で、収穫時期の12月頃に開催しています。毎年多くの参加者が集まり、制限時間内に抜いた本数を競う「選手権の部」と、抜いた大根の長さを競う「グループ参加の部」を実施しています。

参加者は競技として楽しみながら、練馬大根の魅力にふれることができます。また、この大会で収穫した大根は、翌日から区立全小中学校の給食に使用され、食育や地産地消の促進にも貢献しています。

ねり丸も一緒に
大会を盛り上げます。

選手権の部（男性の部・女性の部）とグループ参加の部があります。毎年参加するリピーターが多いのも特徴です。

第10回大会農園主 **神田 耕**さん

住宅街に農地があると、近隣の方に何かとご迷惑をおかけすることもあるのですが、農業を体験したことがある人は畑への理解があるんですよ。引っこ抜き競技大会を通してわかってくれる人が増えたら良いなと思いますね。

◆ ◆ ◆

果樹を活用した体験学習事業

平成24年度から始まった果樹を活用した体験学習事業では、参加者がカキの栽培や収穫などの農作業を学習・体験できます。グループで1本の木を担当し、剪定（せんてい）や摘果（てきか）など、5回程度の講座を受けながら、果樹の育成を体験することができます。収穫した果実は持ち帰ることができます。

カキが大好きな子どもと参加しました

自分の畑でイチから育てる区民農園

都会に住みながら、野菜づくりや収穫を楽しめる場が区民農園です。

区民農園は、15㎡から30㎡程度の区画の畑を区民の方に貸し出す農園です。自宅の近所で気軽に野菜や花の栽培を楽しめることから、大変人気があります。

農園内の共用農具庫にはクワ、スコップ、バケツ、じょうろ等の農具が用意されており、自由にご利用いただけます。

長年、中学校教員として生徒たちと農作物を作っていました。家庭菜園の安全・安心な面に惹かれて、現在は有機栽培、完全無農薬の野菜づくりを楽しんでいます。

区民農園利用者
筒口 典康さん

区民農園の利用案内

利用期間：原則として1年11か月
利用資格：次の2点のすべてにあてはまる方
(1)練馬区在住の方（住民票上の世帯を単位とします）、または過半数が練馬区在住者で構成されている団体
(2)区が定める規則を守って農園を利用することができる方

【休憩施設のない農園】

農園数：21農園　総区画数：1,634区画
1区画面積：約15㎡　使用料：400円/1か月
主な設備：水道、共用農具庫、トイレ・ベンチ（一部農園にはなし）、掲示板

【休憩施設のある農園】

農園数：5農園　総区画数：247区画
1区画面積：約30㎡（障害者優先区画約20㎡）
使用料：1,600円/1か月（障害者優先区画1,100円）
主な設備：水道、クラブハウス（トイレ、休憩室、更衣室、調理設備）農具庫（共用と個人用）、掲示板

令和5年9月1日時点

おいしい情報いっぱい とれたてねりま

練馬産農産物を販売している直売所や飲食店等の情報を掲載しているアプリ「とれたてねりま」。アプリでは、マルシェや収穫体験、キャンペーンの情報も発信しています。ぜひご活用ください!

POINT 1

練馬産農産物を販売する直売所や飲食店等が一目で分かります

POINT 2

旬の情報がリアルタイムで届きます

POINT 3

マルシェや収穫体験などのイベント情報が手に入ります

自分で育てる楽しみ
農にチャレンジ

プロから伝授! 農業のワザ
農業体験農園

平成８年度から始まった農業体験農園は練馬区発祥の畑の学校です。農業のプロである農家が開設し、耕作の指導を行っています。利用者は農園主の指導のもと、種まきや苗の植付けから収穫まで、一連の農作業を体験することができます。農園主の丁寧な指導を受けながら野菜の栽培ができるので、初めて農業にチャレンジする人でも安心して野菜づくりを楽しむことができます。

農作物を栽培し売るだけでもなく、農地を貸すだけでもない、農作業の知識を提供するという農業体験農園は全国に知れ渡っており、農業の新しい形として注目を浴びています。

また、農業体験農園は都市農業への理解を深めるだけでなく、農園主や利用者間の交流の輪も広げ、コミュニティづくりの場にもなっています。

農園主による指導は週末を中心に複数回開催されるので、都合の良いタイミングで指導を受けることができます。

農業体験農園の利用案内

【概要】

1区画面積：約30㎡
利用期間：3月中旬から翌年1月末
利用料金：43,000円（入園料・収穫物代金）
　　練馬区に住民票がない方は55,000円
主な設備：柵、簡易トイレ、水道、休憩施設、農具庫、看板、掲示板
利用対象：18歳以上の方（家族での参加も可）

南大泉やさい村園主

山口 幸治さん

平成20年度に開園しました。うちの園では、1年間で約33品目を育ててもらっています。家族で参加されている方も多く、子どもの野菜嫌いがなおったなどとよく聞きます。食育の場としても役立っているようです。

◆ ◆ ◆

緑と農の体験塾園主

加藤 義松さん（左）

平成8年度に、区内第1号の農業体験農園としてオープンしました。158区画あり、おかげさまで全て埋まっています。住宅地に囲まれた農地ですから、近所の皆さんが気軽に畑に足を踏み入れるきっかけになればと思っています。

◆ ◆ ◆

井頭体験農園園主

加藤 義貴さん（右）

いろいろな方と交流しながら、楽しく野菜づくりができ、食の大切さや、新鮮な野菜の美味しさを体験できます。多くの人に農業を体験してもらい、農業の魅力を伝えていきたいです。

◆ ◆ ◆

農園リストは
P44へ

ねりマルシェに行こう！

おいしい野菜がたくさん！
ねりマルシェの魅力

ねりマルシェは、新鮮でおいしい練馬産農産物やその加工品などを区内の農業者と商業者が直接販売するものです。来訪者は、生産者から農産物等の説明を受けながら、安心して購入できます。

その日に収穫した種類豊富な野菜や色鮮やかな花などが並び、どなたでも気軽に立ち寄り、楽しんでいただけます。

普段目にすることが少ない江戸東京野菜も手に入れることができます。また、商業者により、練馬産農産物を使ったジャムやケーキなどの加工品やワイン・ビールなども販売され、その場で味わうことができます。

令和元年度
ねりマルシェ実行委員長
尾崎 賀一さん

公園で
ねりマルシェ

農家さんバンド！
歌ってマルシェを
盛り上げます

休日の食べ歩きにも！

都内初のワイナリーで作られたワインやブルーベリー発泡酒、練馬産の野菜がふんだんに使われた料理やお弁当・お総菜など、その場でいただくことのできる飲食物も多く扱っています。

まだまだあります
練馬のマルシェ

練馬区では農業者と商業者主催のマルシェもたくさん開催されています。

女性の農業者や若手農業者で開催したり、収穫体験イベントを同時開催したりとそれぞれ工夫を凝らした、さまざまなコンセプトのマルシェが開催され、地域の方との交流が進んでいます。令和２年度からは、練馬区役所でも定期的にマルシェが開催されています。

マルシェはさらに広がっています。地域への愛着を深めるため、西武鉄道が主催して石神井公園駅でマルシェを開催しています。

農業者と消費者の交流が活発になり、都市での暮らしがより豊かになるよう、練馬区は農業者等が主催するマルシェを支援しています。

軽トラで
どこでもマルシェ

女子マルシェは女性が主体となって開催するマルシェで、男性はサポートに回ってもらっています。農家の女性が外に出て活躍する場をつくることができてうれしいです。

チーム ねりま de 女子マルシェ
白石 俊子さん

公園で
ねりま de 女子マルシェ

区役所で
麦わらマルシェ

NERIMA
Farmer's Market
水橋 宏二さん

図書館で
大泉ファーマーズマーケット

練馬産は
ここで！！

直売所に行こう！

新鮮な野菜がずらり!
自宅前直売所

練馬区には、新鮮な農産物を身近で手に入れることのできる場所がたくさんあります。

自宅前直売所では、生産者自らが販売しており、訪れる方は生産者と交流しながら、採れたての農産物を購入することができます。顔の見える売買は食の安心につながり、農産物やその調理方法に関する理解も深まります。消費者との距離が近い都市農業ならではのメリットだと言えます。

おいしくて安心な農産物に会いに、区内の直売所を訪ねてみてください。

コインロッカー式の直売所を設置している生産者もいます。のぞくのが楽しみになりますね！

区役所で野菜が買える!
農産物自動販売機
「ねり丸直売所」

区公式アニメキャラクター「ねり丸」を用いたデザインの自動販売機には、練馬・石神井・大泉と区内各地から農業者が生産した採れたての野菜や果物・加工品が並びます。練馬区役所に来庁された際は、ぜひお立ち寄りください。

場所　練馬区役所本庁舎1階アトリウム

営業日・時間　年末年始を除く平日午前10時30分から午後7時まで

朝採り農産物がならびます!
JA 東京あおばの農産物販売所

JA東京あおばの農産物販売所では、地域の生産者が納入した採れたての農産物を販売しています。新鮮な食品を気軽に購入できると好評で、午前中に売り切れてしまうこともあります。

JA東京あおば
公式ホームページ

こぐれ村

住　　所：大泉学園町2-12-17
電　　話：03-3925-3113
営 業 時 間：10:00～17:00
休　　業　日：水曜日
主な販売品目：野菜・花卉・米・園芸資材 他

練馬地区アグリセンター

住　　所：春日町1-17-34
電　　話：03-3999-7851
営 業 時 間：9:00～16:30
休　　業　日：土曜日・日曜日・祝日
主な販売品目：野菜・花卉・園芸資材・米 他

とれたて村石神井

住　　所：石神井町5-11-7
電　　話：03-3995-3132
営 業 時 間：9:00～16:30
休　　業　日：祝日
主な販売品目：野菜・果実・漬物・花卉・米・園芸資材 他

総合園芸センター「ふれあいの里」

住　　所：桜台3-35-18
電　　話：03-3991-8711
営 業 時 間：10:00～17:00
休　　業　日：火曜日
主な販売品目：野菜・花卉・植木・園芸資材・米 他

JA東京あおば 農業祭

毎年11月に開催されます。練馬大根をはじめとした農産物や特産品などが販売されるほか、ステージショーも行われ、多くの人でにぎわいます。

Make the Wind Blow

風を起こす!

未来につなげる“農”の取り組み

高松みらいのはたけ

区民とともに未来へつなぐ

高松みらいのはたけは、「農の景観を区民とともに育て・守る畑」をコンセプトとした区立の畑です。農と触れ合い、魅力を体感できる場および農を学ぶ機会を提供し、都市農業への理解を深めることを目的に令和５年３月に開園しました。

とうもろこしや枝豆など人気の夏野菜をはじめ、練馬の伝統野菜である練馬大根などを栽培しており、種まきから収穫まで、一連の農作業を手軽に体験できます。

また、園内で栽培している様々な作物の成長を間近に観察できるほか、収穫物を活用した食育学習や農業者との交流などにより、都市農業に関する知識を深める場にもなっています。

ラッピングトラクターもあるよ!

【場所】高松2-23-17
【開園時間】午前９時から午後５時まで
【休園日】年末年始（12/29-1/3）

農の学校

都市農業を支える「ねりま農サポーター」の育成

農の学校は、農業者を支える「ねりま農サポーター」を育成するため、平成27年度に始まった新たな取り組みです。区内農業者の講師による実技講習、座学講習、農家実習等により、支え手として活動するための技術や知識を学びます。修了した受講生を「ねりま農サポーター」として認定し、支え手を必要とする区内農業者とつなげていきます。

また、農の学校では、家族で野菜の作付けから収穫までを体験し、農とふれあう楽しさを学ぶ「農とのふれあい・体験コース」も開講しています。

農の学校は、支え手の育成に加え、区民による都市農業の魅力の発信を目指しています。

【場所】高松1-35-2
【開園時間】午前9時から午後5時まで
【休園日】年末年始(12/29-1/3)

マッチング

農業者とねりま農サポーターをつなぐ援農のマッチング。現在多くの農サポーターが支え手を必要とする農業者のもとで活躍しています。ほかにも区のさまざまな農業イベントに協力しています。

農の風景育成地区制度

農ある風景を未来に継承

都市部において比較的まとまった農地や屋敷林等が残り、特色ある風景を形成している地域について、東京都が農の風景育成地区として指定するものです。

区では、平成27年6月に高松地区（一丁目、二丁目および三丁目の一部）、令和元年12月に南大泉地区（三丁目および四丁目）が「農の風景育成地区」に指定されました。地区内では、マルシェや地区内を巡る風景ツアー、スタンプラリーが開催されるなど、地域ぐるみで農のある風景を保全・育成する取り組みがなされています。

Make the Wind Blow
風を起こす!
未来につなげる“農”の取り組み

練馬流の“食育”

農を通して伝える食の大切さ

食育は、食に関する知識や食を選択する力を習得することで、健全な食生活や健康につなげる取り組みです。食の源である農が身近にある練馬区の子どもたちは、練馬流の“食育”で食の大切さを学んでいます。

区立小中学校では、区内産の野菜を使用した食育も行われています。例えば、練馬大根引っこ抜き競技大会で抜いた練馬大根は、次の日から区立全小中学校の給食に使われています。ほかにも、枝付きのままのエダマメを自分の手でさやとりするなど、子どもたちは給食の時間にも多くのことを学んでいます。

リサイクル肥料

給食から出た野菜くずなどを発酵処理することでできる肥料「練馬の大地」。調理時の野菜の皮や食べ残しを処分するのではなく、肥料へと生まれ変わらせ、農作物の育成に再利用するという循環型社会の実現を目指しています。

栄養士による練馬大根の説明。自分が食べているものへの理解・関心が深まります。

小学校での取り組み

子どもたちの食と農への関心を高めるため、小学校では区内の農業者の協力を得てさまざまな体験学習に取り組んでいます。

学校の周りの農業者への取材・調査を行う学習や、伝統的な製法による練馬大根のたくあん漬け体験などを通じて、子どもたちは食と農の学びを深めています。

区立小学校の社会科等の授業では、練馬大根の食農教育推進教材が使用されています。

「まるごと練馬大根～見る・知る・学ぶ わたしたちの伝統野菜～」

大泉橋戸公園水田事業

大泉橋戸公園内にある「橋戸田んぼ」。地域の団体「橋戸水田自主管理会」の協力のもと、平成24年度から近隣の小学生たちが、田植えや稲刈りなどの米作り体験を行っています。

農業者などの地域の有志が管理を行っている橋戸田んぼのおかげで、小学生は田植えと稲刈りを体験できます。

橋戸水田自主管理会 会長

田中 好雄さん

子どもたちの体験学習では、最初は怖気づいて田んぼに入るのをためらう子も、最後は楽しんで作業してもらっています。成人した時に「練馬にも田んぼがあった」「稲作の大変さ」を思い出してくれたら、とてもうれしいです。

Make the Wind Blow
風を起こす!
未来につなげる“農”の取り組み

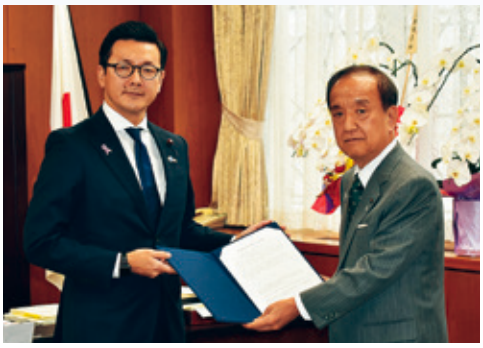
都市農地保全推進自治体協議会

都市農地を守るための連携

都市において重要な役割を担っている農地を守るため、練馬区の呼びかけで平成20年度に設置されたのが「都市農地保全推進自治体協議会」です（練馬区長が会長）。農地のある都内の38自治体が会員となっており、都市農地の保全に関わる制度改正などについて国への要望活動を行っています。

こうした活動が実を結び、平成27年４月に都市農業振興基本法が成立し、都市農業・農地が法に位置づけられました。また、平成29年には生産緑地法が改正され、生産緑地の下限面積等が緩和されました。平成30年６月には、都市農地の貸借の円滑化に関する法律が制定されました。これらの新たな制度は、都市農地の保全を大きく前進させるものです。

都市の宝である農地を次世代に伝えていくため、さまざまな立場の人が連携しています。



観光機能
区内外からの来訪者でにぎわう

教育機能
子どもたちの学習や食べ物の大切さを学ぶ場

農産物供給機能
採れたて野菜が手に入る

景観形成・歴史文化伝承機能
農の風景や屋敷林

都市農業の可能性は無限大

環境保全機能
ヒートアイランド現象の緩和や二酸化炭素の排出抑制

レクリエーション・コミュニティ機能
農を通じさまざまなふれあいができる

防災機能
震災時などの避難場所や「食」の供給

福祉・保健機能
農作業が健康づくりや生きがいに

一歩進んだ取り組みも展開されています

多様な機能を持つ貴重な都市農地

pick up

農地での防災訓練

農業体験農園では、農園の野菜を使った炊き出し訓練などを通じ、地域住民に災害時に地域で助け合う関係の重要性や畑で野菜を確保できることを知ってもらう取り組みが行われています。防災意識を高める取り組みが地域ごとに行われており、農地が身近なものとなっています。

pick up

地産地消の新しい展開

練馬産農産物を使った料理があるレストランや、加工品の販売が増えてきています。また、農産物の栽培、加工、販売までを行う6次産業化についても、意欲ある農業者の取り組みが増えています。

pick up

福祉機能

精神に障害のある方の社会適応訓練や、ひきこもりなどの若者の職業体験が、農業者の協力のもと農地で行われています。都市農業の福祉的機能として期待されています。また、土地所有者から借りた農地等を、区が老人クラブ農園として整備し、周辺の老人クラブに無料で提供することで、会員同士の親睦と健康づくりに役立っています。

もっと前へ！

日々の暮らしと融合している練馬の農業は、農の新しいあり方と言えるでしょう。

都市と農の新しい関係が練馬から始まっているのです。

UAWS 2019 世界都市農業サミット

世界都市農業サミット

令和元年度
練馬区で開催！

海外参加者の
視察の様子

練馬区は、大都市東京の都心近くに立地しながら、
市民生活と融合した生きた農業が営まれています。
都市農業は、都市生活に豊かさをもたらすものであり、練馬区の誇りです。
この農業と農地を守り、次世代に引き継ぐことが区の重要な責務です。
こうした練馬の都市農業の魅力と可能性を世界に発信し、
参加都市が相互に学び、更に都市農業を発展させていくことを目的に、
令和元年度に「世界都市農業サミット」を開催しました。

国際会議

▶ 分科会

海外５都市の農業者や研究者、行政担当者を招き、３つのテーマに分かれて、各都市の事例発表や意見交換を行いました。

▶ シンポジウム

「都市農業の未来を語る」をテーマに、参加都市の代表者が各都市の都市農業の現状や取り組みについて情報交換し、最後にサミット宣言を発表しました。

詳細は
QRコードから
ご確認ください。

世界都市農業サミット宣言

サミットでの議論を踏まえ、
都市農業の意義と可能性を３つの柱で整理しました。

1 都市農業はいのちを育む
2 都市農業は歴史と文化を育む
3 都市農業は公正で開かれた社会を育む

Column

練馬区と海外５都市の都市農業の特徴

練馬 ～市民生活と融合した生きた農業が営まれるまち～

東京23区の農地の４割が練馬区にあります。区内約270か所ある「自宅前直売所」や「ねりマルシェ」では新鮮な農産物を購入でき、「区民農園」や「農業体験農園」では自ら農業を行うこともできます。また、年間を通して果樹の摘み取りができる観光農園（果樹あるファーム）も多くあります。

農地面積23区ナンバーワン

ニューヨーク ～社会の課題を都市農業で解決する～

ニューヨークでは、「グリーンサム」という事業により、現在600か所のコミュニティ農園が運営されています。この活動は1970年代、市の財政危機の際に荒れ果ててしまった空き地を憩いの空間として再生させようと、市民が植物を植え始めたのがきっかけです。市は資材の提供などを行い、管理はボランティアが行っています。

グリーンサム農園

ロンドン ～食料戦略としての都市農業～

ロンドンでは、2012年のオリンピック・パラリンピックロンドン大会に向けて地域の住民が交流できる農園を2,012か所開設する目標を掲げました。現在3,000を超える数まで増えています（キャピタル・グロウス事業）。また、市が掲げる食料戦略の１つの柱として都市農業が位置付けられています。

キャピタル・グロウス事業

ジャカルタ ～急激な都市化に対抗し環境改善に取り組む～

ジャカルタでは、急速な都市化で自然破壊が進行し、気候変動や水害などの問題を抱えています。そういった環境問題を解決するべく、行政と市民の連携で進められているのが「ガンヒジョウ（緑の路地）」と名付けられた緑化活動です。州政府が栽培用ポットの提供や栽培方法のアドバイスを行い、運営の中心は地域住民が担っています。

ガンヒジョウ
（路地でのポット栽培）

ソウル ～市民とともに日常生活に都市農業空間を広げる～

ソウルの都市農業は、屋上・裏庭などを活用した園芸活動や、郊外の市民農園での活動が中心で、レジャーや教育が主な目的となっています。2011年から進めてきた振興施策によって、市内の都市農業空間は約７倍に拡大しています。毎年、都市農業EXPOを開催するなど、市民が都市農業に参加するきっかけを生み出しています。

江東区（カンドンク）市民農園

トロント ～都市農業を通じた移民の社会的包摂～

トロントは、人口の約半数が海外からの移民です。移民の社会的孤立の防止や新規就農者の育成などを目的に、コミュニティ農園が活用されています。「ブラッククリーク・コミュニティファーム」では利用者の祖国の農産物も栽培され、地域住民に供給されています。また、NPOや自治体などが連携して高圧線下の土地を農園に変えるなど、多様な取り組みが進んでいます。

ブラッククリーク・
コミュニティファームの
直売所

データ☆ダイジェスト

練馬でつくられている野菜や果実に植木など
練馬の農業を数字で紹介します。

野菜累計：11,295a

その他野菜類
1,697a

イチゴ
38a

レタス
90a

キュウリ
184a

ナス
185a

カリフラワー
197a

ハクサイ
247a

サツマイモ
268a

トマト
296a

サトイモ
322a

ニンジン
376a

コマツナ
421a

ホウレンソウ
445a

ネギ
496a

ジャガイモ
584a

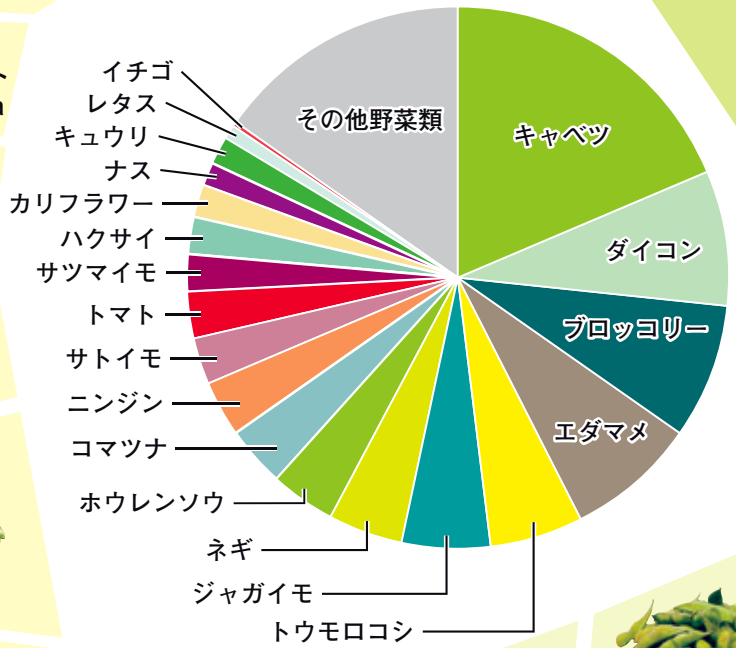
トウモロコシ
634a

エダマメ
889a

ブロッコリー
904a

キャベツ
2,108a

ダイコン
914a



※その他野菜類…カボチャ、ミズナ、タマネギ、ショウガ、タラノメ、オクラ、タケノコ、インゲン、カブ、キヌサヤ　等
※同一作物を同じ土地に年2回作付けし、収穫した場合は2回分の面積を計上しています。

面積単位：1ha＝100a＝10,000㎡

その他累計：2,824a

果樹累計：3,188a

花類
697a

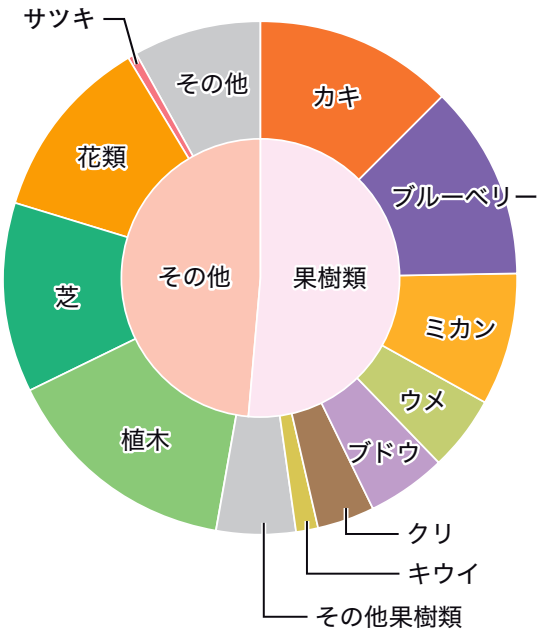
サツキ
33a

その他
477a

カキ
753a

ブルーベリー
740a

芝
724a



植木
893a

ミカン
498a

その他果樹類
301a

キウイ
90a

クリ
223a

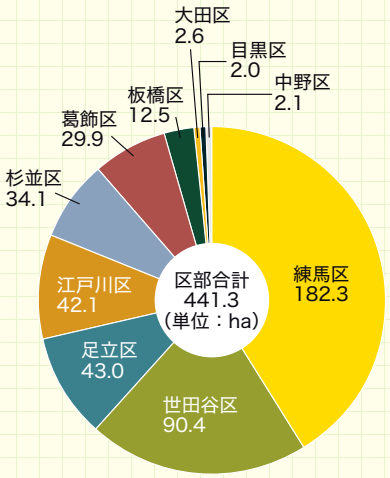
ブドウ
289a

ウメ
294a

※その他果樹類…ユズ、カリン、スモモ、レモン　等
※その他…麦、緑肥、茶、牧草　等

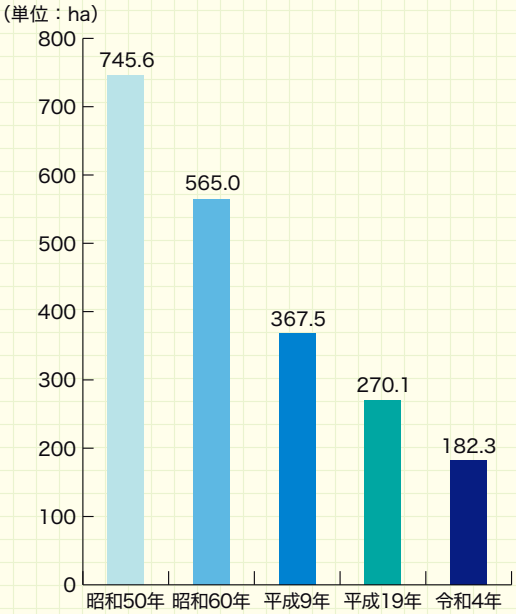
資料：練馬区「令和4年度農業経営実態調査」

東京区部の農地面積



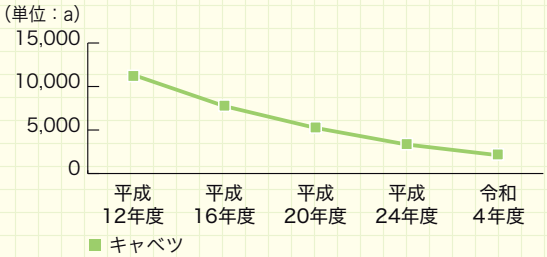
資料：令和３年度
東京都の地域・区市町村別農業データブック

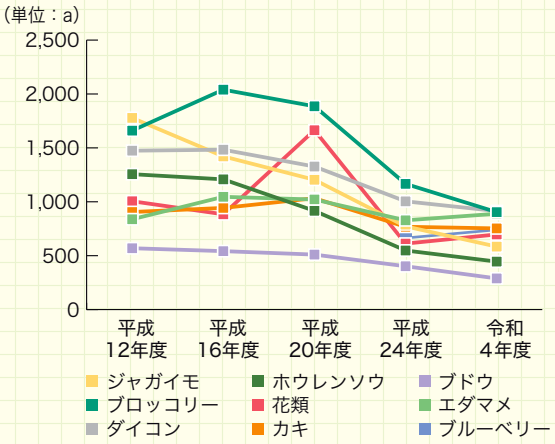
区内農地面積の推移



資料：練馬区（令和４年１月現在）

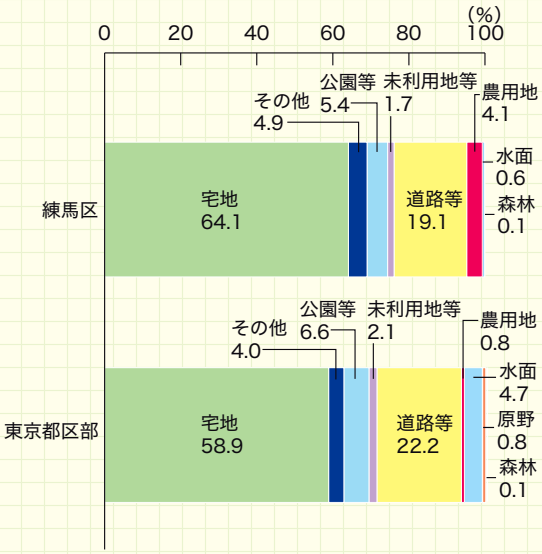
区内主要農作物作付け面積の推移





資料：練馬区「令和４年度農業経営実態調査」

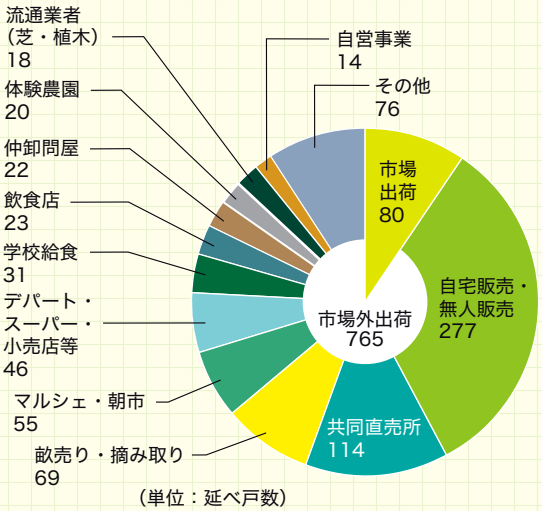
区内の土地利用比率



資料：東京都「東京の土地利用　令和３年東京都区部」

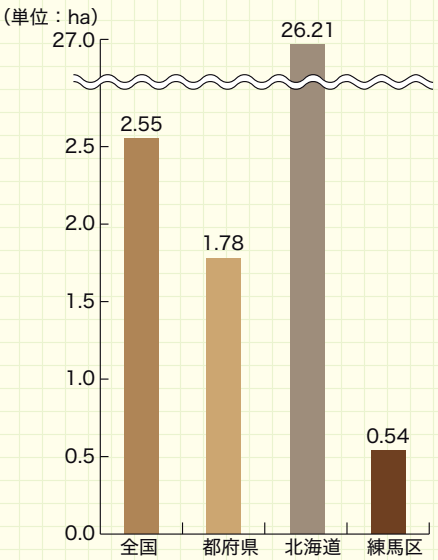
面積単位：1ha＝100a＝10,000㎡

区内農作物販売形態



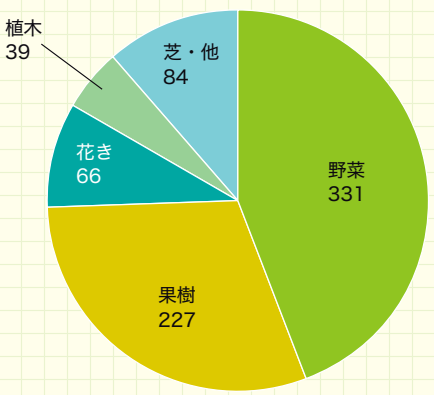
（単位：延べ戸数）
資料：練馬区「令和４年度農業経営実態調査」

農家１戸当たりの耕地面積



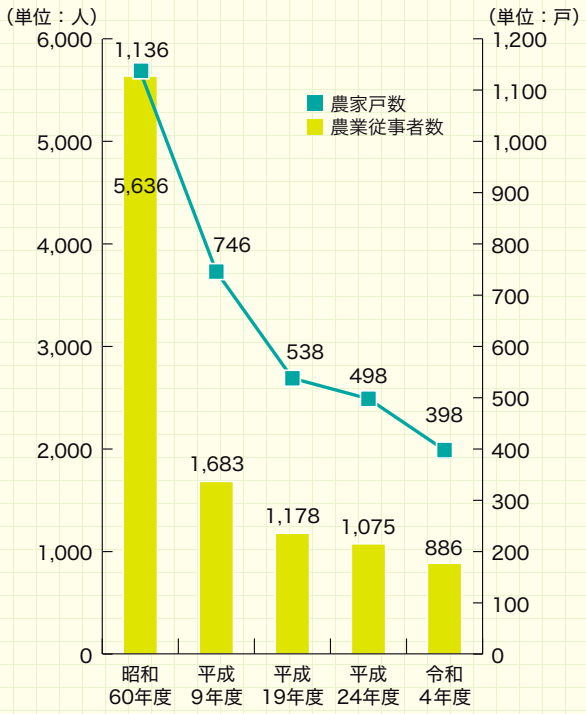
資料：農林水産省「2020 年農林業センサス」
※経営耕地のある販売農家を比較対象としています。

区内農家の生産種類別延べ戸数



（単位：戸）
資料：練馬区「令和４年度農業経営実態調査」

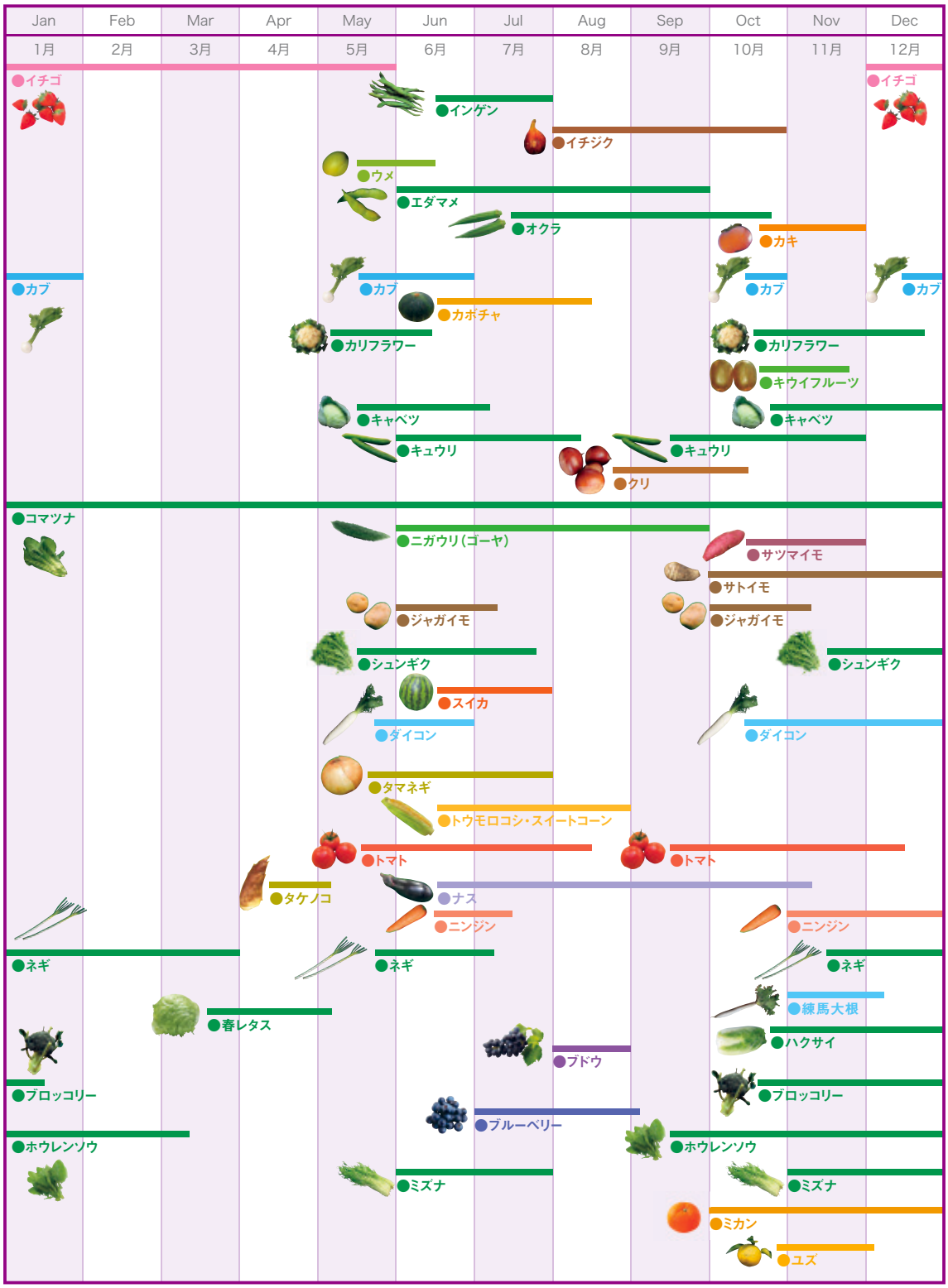
区内農家戸数／農業従事者数の推移



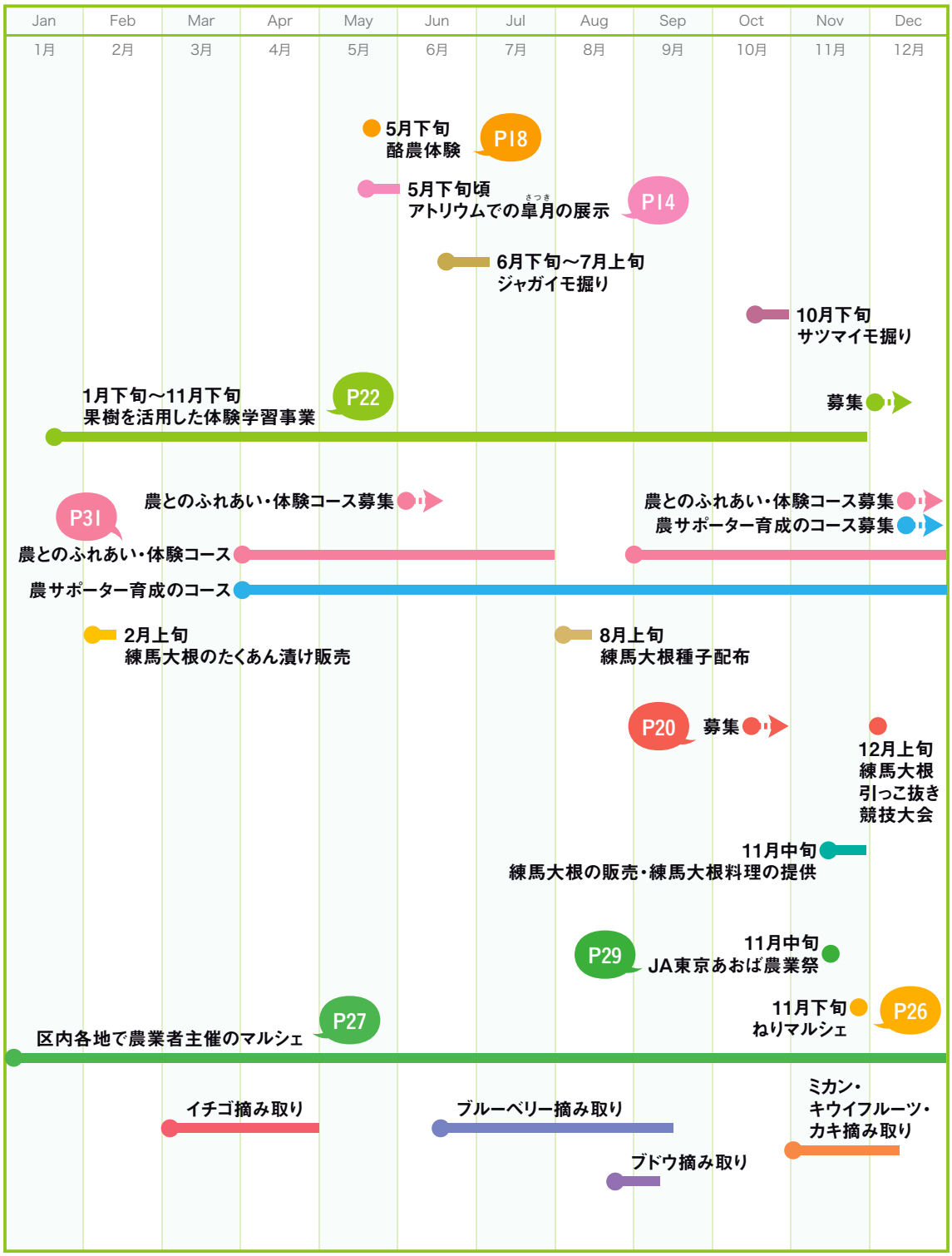
資料：練馬区「令和４年度農業経営実態調査」

シーズン問わず！

ねりまの味わいカレンダー



イベント一覧



＊募集はねりま区報や区ホームページ、アプリ「とれたてねりま」で随時お知らせします。また、実施時期は変動する場合がありますので詳しくはお問合わせください。

農業体験農園

緑と農の体験塾	南大泉3-17	A-3
大泉 風のがっこう	大泉町1-54	B-1
田柄すずしろ農園	田柄1-29	D-2
イガさんの畑	土支田1-35	C-2
学田体験農園	中村南1-4	D-4
農学校「石泉愛らんど」	石神井台6-5	B-3
農業体験農園「緑の散歩道」	大泉学園町3-4	B-2
農業体験農園「どろんこ・わぁるど」	西大泉2-25	A-2
農業体験農園「百匁の里」	大泉学園町3-17	A-2
農業体験農園「楽農くらぶ」	三原台3-27	B-2
農業体験農園「南大泉やさい村」	南大泉4-39	A-3
農業体験農園「農の詩」	石神井町5-15	B-4
農業体験農園「旬感倶楽部」	南大泉1-6	A-4
あーばん あぐりぱーく 石神井台	石神井台8-2	A-4
関町グリーンガーデン	関町北3-20	A-5
農業体験農園「百匁の里第二」	大泉学園町3-12	A-2
農業体験農園「井頭体験農園」	東大泉7-27	A-3
農業体験農園「春日の森ファーム」	春日町5-11	D-3

区民農園

休憩施設（クラブハウス）なし

羽沢三丁目区民農園	羽沢3-37	E-3
中村南一丁目区民農園	中村南1-2	D-4
向山二丁目区民農園	向山2-16	D-3
向山四丁目区民農園	向山4-29	D-3
春日町二丁目区民農園	春日町2-31	D-2
高松一丁目区民農園	高松1-35	C-3
高松一丁目第二区民農園	高松1-35	C-3
高松三丁目区民農園	高松3-11	C-3
田柄一丁目区民農園	田柄1-16	D-2
土支田二丁目区民農園	土支田2-32	C-2
南田中四丁目区民農園	南田中4-12・14	C-4
高野台三丁目区民農園	高野台3-28	C-3
石神井台二丁目区民農園	石神井台2-19	B-4
東大泉一丁目区民農園	東大泉1-1	B-3
西大泉二丁目区民農園	西大泉2-8	A-2
南大泉やまぶし区民農園	南大泉5-8、西大泉1-11	A-2
南大泉三丁目区民農園	南大泉3-30	A-3
大泉学園町四丁目区民農園	大泉学園町4-26	B-1
関町南三丁目区民農園	関町南3-4・7	A-5
関町南三丁目第二区民農園	関町南3-30	A-5
上石神井三丁目区民農園	上石神井3-2	B-4

区民農園

休憩施設（クラブハウス）あり

旭町区民農園	旭町1-12-12	C-2
谷原東区民農園	谷原1-21-27	C-3
谷原西区民農園	谷原6-1-22	C-2
西大泉区民農園	西大泉4-3-8	A-2
南大泉区民農園	南大泉4-30-7	A-3

ブルーベリー観光農園

浅見農園	桜台3-7-12【桜台の畑】	E-3
	羽沢2-25-9【羽沢の畑】	E-3
高松四丁目宮本園	高松4-21	C-3
おざわ農園	高松5-1	C-3
みやもとファーム	高松1-39-5	C-3
村田農園	大泉町1-47	B-1
五十嵐ブルーベリー園	土支田1-37	C-2
やまはち農園	土支田4-45-10	C-1
芹沢農園	大泉町2-12-4	B-2
ベリーファーム・ハイデルベーレ	土支田2-34-17	C-2
さかい農園	東大泉2-15	B-2
山下農園	石神井町6-32-16	B-3
ベリーズ工房小さな果樹園	大泉学園町2-31-8	A-2
A・加藤農園	大泉学園町1-19-3	B-2
ファーム大泉学園	大泉学園町3-17-72	A-2
ベリーワールド・かとう(加藤果樹園)	大泉学園町5-20、5-21	A-1
内堀農園1・2	西大泉4-19、4-21	A-2
高橋ブルーベリーガーデン	西大泉2-12	A-2
永井農園ブルーベリーの里	南大泉6-20	A-2
小美濃園	南大泉5-39-7	A-3
高橋ベリーガーデン1・2	南大泉2-33【ベリーガーデン1】	A-3
	南大泉3-25【ベリーガーデン2】	A-3
南大泉加藤農園	南大泉3-15-3	A-3
加藤ファミリー農園	東大泉6-34-31	A-3
関口ブルーベリー農園	東大泉6-13-19	A-3
井口農園	南大泉1-6-19	A-4
尾崎農園	石神井台5-11-25	A-4
ブルーベリーフィールズ本橋農園	石神井台4-14	B-4
さくら菜果園	関町北5-2-26	A-4
ベリーファームさくらい	関町北4-30	A-4
はまなか農園	関町北3-20-5	A-5

※ブルーベリー観光農園は開園日時が園によって違います

摘み取りができる果樹園

鹿島豊(ブドウ)	春日町6-7-4	D-2
文さんみかん園(ミカン)	土支田3-33-12	B-2
荘埜園(ミカン・カキ)	大泉町1-51・1-50	B-1
シトラスファーム高橋(ミカン)	南大泉3-21	A-3
おざわ農園(キウイフルーツ・カキ)	高松5-3・5-1	C-2,C-3
みやもとファーム(イチゴ)	高松1-39-5	C-3

※果樹園は開園日時が園によって違います

練馬区の農業マップ

ねりまの農業 Agriculture in Nerima

【企画・発行】練馬区 都市農業担当部 都市農業課　〒176-8501　東京都練馬区豊玉北6-12-1
【TEL】03-5984-1403（直通）　【URL】https://www.city.nerima.tokyo.jp/　【発行年月】令和5（2023）年11月　【制作】（株）ジャパンインターナショナル総合研究所